森林官ってどんな仕事？

日本の面積の2割、森林面積の3割を占める国有林は、北は北海道から南は沖縄県まで全国各地に所在しています。このような国有林の管理経営の最前線で重要な役割を果たしているのが「森林官」です。

今回は、国有林の調査や巡視をはじめとして、専門的で多様な業務を担っている「森林官」についてご紹介します。

1. 森林官とは

林野庁では、全国各地の広大な国有林において管理経営の取組を効果的に行うため、全国に7つの森林管理局を設置し、その下部機関として、98の森林管理署・14の支署等を設け、国有林に期待される役割が十分に発揮されるよう、国有林の状態の調査や巡視を実施するとともに、その結果に基づいて、間伐など森林の整備や保全の事業を行っています。

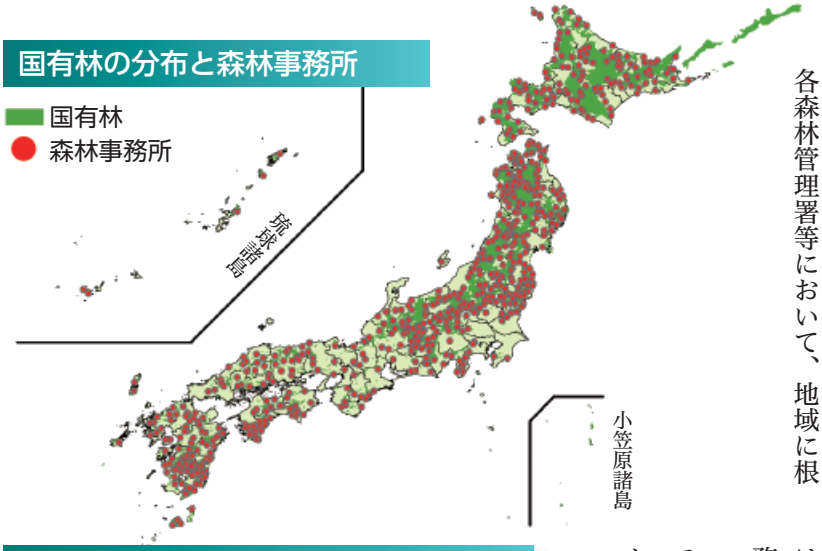
各森林管理署等において、地域に根差した管理経営を行う上で、重要な役割を果たしているのが「森林官」です。

森林官は、それぞれ管轄する国有林（担当区）をもち、日々、国有林の調査や巡視、間伐などの各種事業の監督、地元の自治体や住民の方々との連絡調整などを行っています。

森林官は、全国に約840名おり、一人当たりの管轄面積の平均は、約9千haになります。この面積は、山手線の内側（約6千ha）よりも大きく、日々の業務を効率的に行うため、森林官は、国有林の現場に近接した「森林事務所」で勤務しています。

森林官は、いわば「国有林の顔」として、地域と国有林をつなぐ役割を果たしています。

国有林の分布と森林事務所



国有林の組織

- 林野庁
- 森林管理局（7）
- 森林管理署（98）・支署（14）等
- 森林官（約840名）

2. 森林官の装備

森林官は、様々な業務を担っていますが、一般的な事務職の公務員と異なり、多くの時間、国有林内での調査や事業の監督などを行っています。このため、一般にはあまり目にすることがない森林官の現場での服装や装備をご紹介します。

現場での服装は、業務服にヘルメット、手袋、スパイク付きの地下足袋や長靴が基本となります。森林の調査などを行う際には、鉈や鋸を装備し、国有林の地図や調査結果を記入する野帳などをマップケースに入れて携帯します。また、クマが生息している地域では、人間の存在を知らせるための熊避け鈴を装備することもあります。

保安帽（ヘルメット）

落下物があった際や転倒した際に頭部を保護してくれる保安帽。それぞれに名前と血液型が記されています。

なお、保安帽の正面と業務服の胸のところに付いているのは国有林のシンボルマークです。

業務服と手袋

業務服は林野庁職員の現場でのユニフォームです。障害物や虫等から肌を守れるよう、厚手の生地でできており、手袋も革製などの丈夫なものを用います。

図面とマップケース

通常、森林官が使用する図面は、縮尺２万分の１の施業実施計画図と５千分の１の基本図。

図面は、紙でできているので、濡れないようにマップケースに入れて持ち歩きます。

鉈と鋸の２丁差し

灌木の刈り払いなどに使用する鉈と鋸。これを一つの鞘に入れて持ち運びます。（詳しくは本誌１１月号「林野庁一口メモ」参照）

鞘には、動いても鉈や鋸が抜けないように、バンドが付いています。

スパイク付き地下足袋

急傾斜地でも安定して移動できるよう、地下足袋にスパイク（滑り止めの金具）をつけた履き物。ほとんど山林でしか見かけません。

雨の日やぬかるんだところを歩く場合は、スパイク付きゴム長靴やスパイク付き防水地下足袋を使用します。

熊避け鈴

野生動物に人間の存在を知らせ、遠ざけます。

脚絆

ズボンの裾は、通常、障害物にからまないように靴下の中に入れます。その上からすねとふくらはぎを覆い、裾を安定化させ、すねをガードするのが、脚絆です。鎌等の刃物を使用する場合などは、脚絆を付けます。（図は脚絆を付けた状態）

先割れ靴下

地下足袋のつま先は割れているので、中に履いている靴下も当然先割れです。５本指靴下も可です。（図では靴下は見えていません）

「森林官」の歴史

「森林官」の歴史は、国有林が成立した明治時代までさかのぼることができます。当時は、「官林監守人」、「森林監守」、「森林主事」と呼ばれていました。基本的な業務の内容は、森林の巡視や伐採の監督など現在の森林官と大きく変わりませんが、当時は、現在のような業務服ではなく、写真のような制服を着用し、サーベルを携帯していました。

戦後、「担当区主任」という名称に変更され、平成４年から「森林官」の名称が導入されました。このため、年配の方の中には、今でも森林官のことを「主任さん」と呼ぶ方もおられます。

服装や名称は変わりましたが、１００年以上前から現在に至るまで、「森林官」は国有林の管理経営の最前線で重要な役割を担っています。

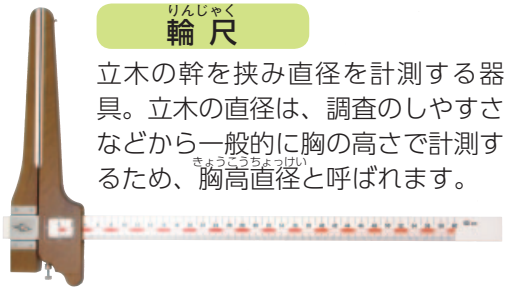
森林監守

3. 森林官の業務

森林官は、国有林の管理経営の最前線で様々な業務を担っていますが、代表的な業務とそれに用いる道具類をご紹介します。

(1)森林の調査

森林官の重要な業務の一つに森林の調査があります。代表的なものは間伐等の実施に必要な立木の調査(収穫調査)です。収穫調査では、専用の道具を使って立木の直径や樹高などを計測し、伐採する木や量を決定します。



輪尺（りんじゃく）

立木の幹を挟み直径を計測する器具。立木の直径は、調査のしやすさなどから一般的に胸の高さで計測するため、胸高直径（きょうこうちょくけい）と呼ばれます。

収穫調査の様子

(2)国有林と民有地の境界の管理

国有林の管理に不可欠な業務が民有地との境界の管理です。国有林と民有地の境界には、コンクリートなどでできた「境界標」が埋設されています。また、境界標の位置については、大部分が明治期に測量が行われて位置が確定されています。森林官は、業務の一つとして国有林の境界に異常がないかチェックするための調査(境界巡検)を行っています。境界巡検では、境界標の位置を確認するため、必要に応じ、測量器具を用いて、方位、距離等の計測を行っています。

間縄（けんなわ）

距離を計測するための目盛りのついたポリエチレン製などのロープ。

境界巡検の様子

ポケットコンパス

方位磁石を用いて方位角や傾斜を計測する測量器具。森林内でも持ち運びがしやすいようコンパクトに折りたたむことができます。

(3)調査結果や事業実施結果の管理

森林内で行う調査だけでなく、日々行う調査や巡視、各種事業の実施結果の管理など森林事務所の室内で行う業務も森林官の重要な業務の一つです。森林官は、調査結果などをとりまとめ、結果を「森林調査簿」と呼ばれる森林のデータベースや「施業実施計画図」などの国有林の地図などへ反映させています。最近では、森林情報のデータベースと地図情報をパソコン上で一体的に取り扱う「国有林ＧＩＳ」も導入されています。

こうした森林官が日々収集・整理する国有林の基礎的な情報は、各種事業の発注や国民の皆様への情報提供などに活用されています。

国有林ＧＩＳ

樹種や林齢などの森林情報と地図情報を一体的にパソコン上で取り扱う情報システムです。間伐等の候補地の位置表示や面積の計算などが可能です。

施業実施計画図

縮尺２万分の１の国有林の地図です。国有林の位置や地形(等高線)のほか、植栽樹種や植栽後の年数(林齢)、各種法律による規制などが記載されています。

4. 森林事務所

森林官の勤務している事務所を「森林事務所」と呼んでいます。森林管理署と森林事務所の関係は、警察署と駐在所の関係に似ており、署は市町村の中心部にあり、一方で森林事務所は現場に近い山村集落に多く所在しています。

森林事務所には、森林官の事務室が設けられており、電話やパソコンなどの事務用品のほか、国有林の各種地図や台帳、国有林を上空から撮影した空中写真などが備え付けられています。また、宿舎が併設されている事務所も多くあります。

森林事務所の外観(倉渕森林事務所)

森林事務所の内部(倉渕森林事務所)

5. 森林官の車両

森林官用の車両には、写真のような全国統一のカラーリングが施されています。

悪路等でも対応できるように4WD車となっています。

森林官の車両

樹高測定器

立木までの距離と梢を見上げる角度から樹高を計測する器具。

境界標

上の写真で上部が赤く十字が刻まれている杭が境界標です。国有林と民有地の境に設置されます。

森林事務所内での作業の様子

中部森林管理局
北信森林管理署　木島平森林事務所
森林官　百瀬（ももせ）　結（ゆい）

■森林に関わる職業を選んだきっかけは？

大学で森林・林業を学び、間伐の重要性を知ったのが興味を持ったきっかけでした。「森林伐採＝環境破壊」ではないことを多くの人に知ってもらいたい思い、森林・林業に携わる仕事を志望しました。

■日常、どのような業務を行っていますか？

造林や間伐などの事業の監督、収穫調査、境界巡検、林道点検など、管内の国有林に関するあらゆる業務に携わっています。

豪雪地帯なので、積雪の状況によっては現場に入ることができないため、6月～11月の6か月ほどで1年分の現場業務を行わなければなりません。請負事業の現場に行くついでに近くの貸付地の現況確認も行うなど、できるだけ効率的に業務の予定を組むよう心がけています。

また、管轄している国有林内には「日本一美しいブナ林」とも言われるカヤの平高原があるため、散策の案内などをすることもあります。夏には地元の農林高校の生徒を対象に歩道の整備、間伐材を使った階段づくりなどの林業体験の指導を行い、最近は60歳代の方のグループにブナの原生林を案内しました。

森林官の業務は多岐にわたって大変ですが、除伐や間伐等の事業が終わった後の、光が射し込み明るくなった山を見ると、きれいになったなぁ～と嬉しくなります。自分の仕事の成果を目で見て感じられるところにやりがいを感じます。

■山村でどのような生活をしていますか？

長野県木島平村は自然豊かな村で、農業が盛んに行われています。周囲が田んぼと畑に囲まれているので、「ちょっとトマト採れたから持っていって」と、ご近所の方から美味しい採れたての野菜をおすそ分けしていただいたりしています。

私にはもうすぐ5歳になる娘がいますが、保育園でも農業体験を多く取り入れられているためか、野菜や植物への興味が自然と湧くようで、野菜は好き嫌いなく美味しく食べますし、山菜や木の実など、山の恵みの食材も大好きになりました。

平日は、なかなか娘とゆっくり話をしたり遊んだりしてあげられないので、休日は広い公園に遊びに行ったり、菜の花を見に行ったりして、家族でのんびりと過ごしています。

■今後、目指していきたい事は？

まだまだ知識も経験も浅いので、これからどんどん山を歩いて、教えていただいたことをしっかり吸収し、「山を見る目」を養いたいと思います。

また、志望のきっかけとなった「人に伝える仕事」もこなせるよう、木だけでなく山で暮らす様々な動植物に関心を持ち、自分の引き出しをいっぱいにしていけるよう勉強を続けたいと思います。

ある日のスケジュール

6:00　起床、朝食とお弁当作り
6:40　娘を起こす（なかなか起きないので毎朝大変です）
7:00　夫を見送り、娘と朝食
8:00　保育園に娘を預ける
8:30　勤務開始
　　メール等のチェック、今日の予定確認
9:15　造林請負事業の監督
　　進捗状況などを確認します。
12:00　昼休み
13:00　境界巡検
　　急斜面もあるので、足元に十分注意しながら歩きます。
16:45　森林事務所に帰着
　　翌日の予定確認、メール等のチェック。
17:15　勤務終了
　　保育園へ娘を迎えに行く。
　　本日の夕飯はオムライス。娘と一緒に作ります。

どうすれば森林官になれるの？

森林官になるためには、国家公務員採用試験に合格し、林野庁職員として採用される必要があります。林野庁職員に採用後、一定の業務経験や研修などを経て、森林・林業に関する知識を修得した上で、森林官として配属されることになります。

林野庁の採用スケジュールなどの詳細については、林野庁ホームページ（http://www.rinya.maff.go.jp）のトップページ「採用情報」から見ることができます。

6. 森林官への

関東森林管理局
群馬森林管理署　倉渕森林事務所
森林官　高橋　秀夫

■森林に関わる職業を選んだきっかけは？

実家が兼業農家だったので、自然に親しんで育ちました。大学で主に植物の生態学を学んだこともあり、自然と関わりながら人の役に立つ仕事に就きたいと思ったのが、きっかけです。

■日常、どのような業務を行っていますか？

造林や間伐などの事業の調査や監督、林道の管理・補修など、管内の国有林に関する業務が主ですが、民有地を通る林業専用道を整備するため、地権者を探すといった業務を行うこともあります。

倉渕森林事務所の管内には、観音山や榛名山等の観光地があるため、国有林内の倒木や蜂の発生等についての対応要望が多いのが特徴です。特に観音山は市街地に隣接しているため、日照や眺望等についての要望や質問も数多く寄せられます。

そのほか、都市近郊に位置するため、企業や地元の中学校の林業体験講師やインストラクターを務めることも多く、指導やプログラムの作成を行っています。

森林官の業務では、自分のした仕事の成果を直接見ることができるのが何よりも嬉しく、やりがいを感じています。植林後の標柱に森林官として自分の名前が入っているのを見ると、この先何年も残る仕事ができて「やった！」と感じます。また、林業専用道の整備等で地元の方の要望に応えられたことも、心に残る成果でした。

■山村でどのような生活をしていますか？

春の芽吹き、初夏の田んぼの青さ、秋の紅葉と、四季の変化を直接感じることができる環境が素晴らしいと思います。特に秋の稲穂は壮観です。

自然に恵まれているのは何より嬉しいことで、休日は山菜を採って調理したり、名水といわれる湧き水を飲みに行ったりしています。また、近隣には江戸末期の幕臣・小栗上野介関係の慰霊碑等があり、私も保存会の方々と一緒に地域の歴史を学んだり、史跡の清掃を手伝ったりしています。

森林事務所はこの一帯のメインストリートに面しているので、地元のお祭りや花火を特等席で楽しむことができます。また、周辺に温泉が多いのも魅力のひとつで、顔見知りの方とあいさつを交わしながら、日ごろの疲れを癒やしに通っています。

■今後、目指していきたい事は？

森林官になって2年目と未熟なので、もっとスキルアップして業務をこなしていけるようになりたいと思います。国有林としても今後、民有林との関わりが増えていくと思いますので、地域との仲立ちができる存在になれたらと考えています。

また、将来は森林官として現場で見聞きしたことを活かし、現場感覚のある行政官になりたいと思います。

ある日のスケジュール

6:30　起床
朝は苦手ですが、熱いお風呂で目を覚ましてがんばります！

7:00　朝食

8:00　森林事務所へ
事務所に宿舎が併設されているため、通勤時間は扉を開けて２秒。 地元の方からの要望が朝早く入ることもあるので、早めに事務所に入ります。

8:30　勤務開始
メール等のチェック、予定確認と1日の予定を森林管理署に連絡します。

9:00　要望対応
地元の方から入った要望の電話に対応します。

10:00　要望のあった現地へ
現地で要望者の話を聞き、状況を確認、対応します。要望で多いのは倒木の処理と蜂の発生への対応です。

12:00　現地に持参したお弁当で昼食

13:00　造林や間伐事業の監督、２～３か所の現場を回ります。

16:00　森林事務所に帰着
森林管理署に一日の報告、翌日の予定確認、メール等のチェック。今日は地元要望対応の書類を作成します。

18:00　勤務終了
この後は近所の温泉で一日の疲れを癒やします。

7. おわりに

国有林の管理経営の最前線では、日々、専門的で多様な業務を担う森林官が活躍しており、林野庁の職員の多くは、一度は森林官として、森林・林業の現場の最前線での業務や山村地域での生活を経験しています。

林野庁では、今後とも、地域に密着した行政組織として国民の皆様の期待に応えられるよう、今回ご紹介した森林官をはじめとした職員が一丸となって、森林・林業の再生や山村の活性化、国有林野の適切な管理経営などに取り組んでまいります。